

# 幼児教育に生かす深層心理学

幼稚園カウンセラー 神藤伸子

生きる力の基礎を培う幼稚園教育（幼稚園は子どもが初めて出会う学校です）

## 1 幼稚園教育の基本

学校教育法「第3章幼稚園」より

第22条 幼稚園は、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し幼児の健やかな成長のために適当な環境をあたえて、その心身の発達を助長すること目的とする。

### （1）環境を通して行う教育の意義

幼児期は心身の発達が著しく、環境からの影響を大きく受ける時期である。この時期にどのような環境の中で生活し、その環境にどのようにかかわったかが将来にわたる発達や人間としての生き方に重要な意味をもつことになる。幼稚園教育においては、教育内容に基づいた計画的な環境をつくり出し、その環境にかかわって幼児が主体性を発揮して展開する生活を通して、望ましい方向に向かって幼児の発達を促すようにすること、すなわち「環境を通して行う教育」が基本となる。

### （2）幼児の主体性と教師の意図

幼児教育が目指しているものは、幼児が自ら周囲に働きかけて、幼児なりに試行錯誤を繰り返して、自ら発達に必要なものを獲得しようとする意欲や生活を営む態度、そして豊かな心をはぐくむことである。活動の主体は幼児であり、教師は活動が生まれやすく、展開しやすいように意図をもって環境を構成していく。ここでいう環境とは物的な環境だけでなく、教師や友達とのかかわりも含めた状況すべてである。

## 2 幼稚園教育の目標

幼児期における教育は、家庭との連携を図りながら、生涯にわたる人間形成の基礎を培うために大切なものであり、幼稚園教育の基本に基づいて展開される幼稚園生活を通して生きる力の基礎を育成するよう学校教育法第23条に規定する幼稚園教育の目標の達成に努めなければならない。

学校教育法「第3条幼稚園」より

第23条 幼稚園における教育は、前条（22条）に規定する目的を実現するため、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

- 一 健康、安全で幸福な生活のために必要な基本的な習慣を養い、身体諸機能の調和的発達を図ること。
- 二 集団生活を通して、喜んでこれに参加する態度を養うとともに家族や身近な人への信頼感を深め、自主、自律及び協同の精神並びに規範意識の芽生えを養うこと。
- 三 身近な社会生活、生命及び自然に対する興味を養い、それらに対する正しい理解と態度及び思考力の芽生えを養うこと。
- 四 日常の会話や、絵本、童話等に親しむことを通じて、言葉の使い方を正しく導くとともに、相手の話を理解しようとする態度をやしなうこと。
- 五 音楽、身体による表現、造形等に親しむことを通じて、豊かな感性と表現力の芽生えを養うこと。

### 3 教育課程の編成と指導計画の作成

教育課程… 園の教育の道筋を示すものであり、入園から終了までの教育期間を見通し、幼児の生活経験や発達のプロセスを基に、幼児にとってふさわしい園生活の全容を方向付けるものである。

指導計画… 教育課程を実施するに際して、具体的な指導方法を定めた実践の計画である。指導計画では、一人一人の幼児の興味・関心や発達の実情をふまえながら、具体的なねらいや内容を設定する。実際に指導を行う場合には、幼児が環境にかかわって生み出す活動が望ましい方向に展開できるように、教師は環境を再構成したり援助したりするなどの指導を行って行くことが大切である。

#### 指導計画を作成するに当たって

##### (1) 環境の構成

環境の構成を行うとは、幼児の姿に即して、その時期にどのような体験を積み重ねることが必要かを明確にし、そのための状況を物や人、場や時間、教師の動きなどと関連付けてつくり出していくことである。その際、次のような視点を持ち、常に幼児の発達に意味のあるものとなるよう再構成し、柔軟に考えていくことが大切である。

- ① 発達の時期は…
- ② 幼児の興味や欲求は…
- ③ 生活の流れは…

幼児の発達に意味のある環境を構成する。

##### (2) 教師の役割

教師は、主体的な活動を通して、幼児一人一人が着実な発達を遂げていくために、活動の場面に応じて、次のような様々な役割を果たさなければならない。

- 幼児が行っている活動の理解者
- 幼児との共同作業・共鳴者
- 幼児があこがれを形成するモデル
- 幼児の遊びが充実するための援助者
- 幼児が精神的に安定するためのよりどころ

##### (3) 保育記録と評価

日々の保育の中で幼児の生活する姿から「その子が今、何に興味をもって、何を身につけようとしているのか」「これから伸びようとする面はどこか」など、実態をとらえることを大切にする。また、目に見えにくい心情、意欲を育てるために、内面理解に努める。そのために、教師は幼児とかわりながら幼児を観察し、保育記録に残す。幼児の行動を「何となく」見ているだけでは、実態をとらえることはできないので、視点をもって評価する。

幼児の実態・状況の変化をとらえる。

↓

教師自身の指導・援助を評価し・指導計画や指導計画を改善していく。

↓

保育記録を整理し、その子の育ちを評価する

#### 評価の視点

- 活動の中の何を楽しんでいるか。
- どんな課題をもっているか。

- 教師に求めているものは何か。
- 仲間関係はどうか。

#### (4) 保育内容の充実

幼児期に育てるべき基礎的な生活習慣、創造的な思考力や主体的な生活態度の基礎を育てるとともに、豊かな生活体験を通して自我の形成を図り「生きる力」の基礎を培うための教育内容を十分検討する必要がある。

##### ア 道徳性の芽生えを培う

幼児にふさわしい道徳性の芽生えは、幼稚園生活全体を通して他者と共に生活し、他者とのやりとりを重ねていく中で培われていくことを重視することが大切である。

###### 道徳性の芽生え

- 善悪に気付き、考えながら行動する。
- きまりの大切さに気付き、守ろうとする。
- 友達とのかかわりを深め、思いやりをもつ。

##### イ 幼児にふさわしい知的発達を促す

幼児は遊びの中で周囲の環境や友達と直接かかわることで、好奇心や探究心を抱き、物事の法律性に気付いたり、自分なりに考えたりする。また、感情のコントロールや思いやり、協力することの大切さなども体験的に学んでいく。さらに、言葉や記号などを用いることを通して、文字や数量に対する感覚やその記号のもつ意味に気付いていく。そのため教師はそれらに幼児が触れ、感じ、考えることのできるような環境をつくり出すことが大切である。そして遊びの中で一人一人の興味・関心に基づき、主体性を重視した指導をすることが大切である。

##### 希望するすべての幼児に対する充実した幼児教育の提供

幼児期の発達の特性に照らして、幼児の自発的な活動としての「遊び」を重要な学習として位置付け、教員による組織的・計画的な指導を「環境を通して行う」幼児教育の基本にたつて、その活動を一層充実する。併せて、教育機会の確保、教育環境の充実、障害のある幼児に対するきめ細やかな対応の推進、保護者負担の軽減等の施策を進めることにより、これまでに策定された幼稚園教育振興計画等の経緯を踏まえつつ、入園を希望するすべての満3歳児～5歳児への幼児教育の機会を確保する。

##### 発達や学びの連続性を踏まえた幼児発達や学びの達成教育の充実

###### (幼稚園・保育所と小学校との連携)

就学前の教育と小学校の教育の滑らかな接続を目指し、一步前進するよう行動することが大切である。例えば合同の研究会を開催したり、互いの教育の様子を参観したり、幼児や児童が行事等で交流したりするなど、相互に学び合う機会をつくり、互いの教育に関心をもって連携を密にしていくことが必要である。

##### 教師の資質及び専門性の向上

幼稚園教員は、幼児の育ちをめぐる環境や親の子育て環境などの変化に対応する力をもつことが重要であり、子育てに関する保護者の多様な悩みを受け止め、適切なアドバイスのできる力なども求められる。教員は常に資質向上を目指し、自ら求めて研さんを積むことが必要である。

###### 【求められる専門性】

※幼児を内面から理解し、総合的に指導する力※具体的に保育を構想する力、実践力

- ※得意分野の育成、教員集団の一員としての協働性
- ※特別な教育的配慮を要する幼児に対する力
- ※小学校や保育所との連携を推進する力
- ※保護者及び地域社会との関係を構築する力
- ※園長など管理職が発揮するリーダーシップ
- ※人権に対する理解

#### 幼児教育を地域で支える基盤等の強化

《子育て・親育ちへの支援》

- ◎預かり保育の実施、子育て相談の実施
- ◎遊びの場としての園庭、園舎開放
- ◎親同士・親と子の交流の場の提供
- ◎子育て情報の提供(情報雑誌・インターネット)
- ◎子育て講座の開催
- ◎未就園児への施設開放・遊びの場の提供

## アドラーとフロイトの相違

	アドラー	フロイト
①	人格全体が統一体である	エゴ・b スーパーエゴ f・c イドという分とか無意識と意識の分割をする。
②	優越への努力あるいは自己向上への努力として区別された上向きに努力する力を提唱。	性動因を過剰に協調して性の本能と死の本能を区別した。
③	人間が生まれつき持っている共同体感覚の可能性、社会を改善しようとする努力を信じる。	対立している性の本能と死の本能のカオス・混沌を単純に避けるために社会が構成されている。
④	男女の平等と性的平等を達成する女性たちの解放を強調しました。	女性の従属的な役割の目的が子どもを産んで養育し家事をするものだという信念。
⑤	宗教はそれ自体が共『共同体感覚を促進するので有用であり得ると信じた。(汝自身を愛するように汝の隣人を愛せよ)	宗教が子供っぽい無力さ、錯覚欲望の充足(保護的な全能の神)の空想への退行だと見なしました。
⑥	エディプス・コンプレックスは過度に甘やかされた結果である。	エディプス・コンプレックスは生れつきであって普遍的なものだと信じた。
⑦	人間性について基本的に楽観的。	基本的に悲観的で、死の本能がやがて勝つ。
⑧	欠陥があるライフ・スタイルを再構成して共同体感覚を促進する方法として心理療法の価値を強調。	心理療法の目的は自由連想法によってもめごとの無意識の源を洗い出すこと

### ★エディプス・コンプレックス

男の子が、母親をしたい、父親に反感を覚える傾向

★心理療法とは、生活するにあたってより良いスタイルを発達させることに向けられおり、誤ったライフ・スタイルをよりポジティブな見解に置き換えることとか、共同体感覚を発達させることなのです。

## ～自立心を育むには～

### 子どもの心の聞き方

#### ・「聞く」「訊く」「聴く」の違い

- ・ 質問型のコミュニケーションを心がける  
「なぜ」「どうして」「だれと」「どこで」「なに」

### 親の気持ちの伝え方

- ・ 「私メッセージ」と「あなたメッセージ」の違い  
あなたメッセージ：「あなたは何故ちゃんと返事をしないの」  
私メッセージ：「(お母さんは) あなたがちゃんと返事をしないと聞こえていないのでは  
ないかと気になるのよ」  
・ 「注意」「叱る」「怒る」の違い

## 子ども ドロシー・ロー・ノルト 作

批判ばかりされた子は、非難することをおぼえる。

殴られて大きくなった子どもは、力にたよることをおぼえる。

笑いものにされた子どもは、ものを言わずにいることをおぼえる。

皮肉にさらされた子どもは、鈍い良心のもちぬしとなる。

しかし、激励を受けた子どもは、自信をおぼえる。

寛容にであった子どもは、忍耐をおぼえる。

賞賛を受けた子どもは、評価することをおぼえる。

フェアプレーを経験した子どもは、公正をおぼえる。

友情を知る子どもは、親切をおぼえる。

安心を経験した子どもは、信頼をおぼえる。

可愛がられ抱きしめられた子どもは、世界中の愛情を感じとることをおぼえる。